

「市民の声から始まる自然再生」

第19回

# ふくおか 水もり自慢 in 北九州

は？、どうしたんかちゃ！？  
紫川のタナゴがおらんごとなつとーやん！



2022年12月04日（日）10：00～ @黒崎ひびしんホール

# ふくおか水もり自慢！

「ふくおか水もり自慢！」とは、福岡県内の「水」・「森」に関わる活動をしている団体（市民団体、NPO、行政、企業、専門家など）が一堂に会し、異分野交流や行政と市民団体のパートナーシップを促進するとともに、他の団体の活動状況や手法を学び今後の活動の糧とします。

そして、福岡県にある豊かな自然と人間が共存していくために必要な考え方や取り組みを一緒に検討し、お互いの活動を称えあいます。

## 「市民の声から始まる自然再生」

環境首都を自ら宣言している北九州市は、2018年にSDGs 未来都市としても選定されました。しかしながら、市のシンボルリバーでもある紫川では、生息していたタナゴ4種がこの10数年の間に絶滅してしまいました。原因として、治水のために行われた工事の影響が示唆されています。

今大会のテーマは「市民の声から始まる自然再生」です。NPO法人北九州・魚部が実施した紫川でのタナゴ生息調査の結果や、カゼトゲタナゴの域外保全事業を事例とし、専門家や行政と個体群再生への道筋や、未来の河川整備のあり方を探ります。また、県全土における水辺環境の「今」についても、各団体の発表をもとに認識を深めます。県内の自然に携わる個人や団体の活動について、環境首都であり、市民の声から公害を無くした街「北九州」から多くの人々へ発信します。

## 最近「タナゴがすめない川」になった紫川

カゼトゲ、カネヒラ、バラタナゴ、ヤリタナゴ  
彼らはなぜ**絶滅**したのか？ **再生**は可能なのか？

紫川に整備された人工ワンド

# ごあいさつ

河川整備、流域治水に関することを行っています。



福岡県河川整備課  
課長 北野 靖

本日は「ふくおか水もり自慢！」にご参加を頂き誠にありがとうございます。福岡県が平成16年度に始めた「ふくおか水もり自慢！」は、おかげさまで今回19回目を迎えることができました。これまで、県内各地から、「水」や「もり」などの水環境に関わっておられる多くの方々にご参加いただき、お互いの活動について語り、関心を深めることで、市民、学校、行政の垣根を越えた交流の輪が広まってきております。今回も、豊かな自然を守り伝える活動を熱心に行っている皆様に集まっていただいております。この集いによって、新たな交流や連携が生まれ、皆様の今後の活動に役立つことを祈念します。

紫川産カゼトゲタナゴの系統保存をしているよ。



## 北九州魚部

Kitakyushu Gyobu since 2015



大会実行委員長  
NPO法人北九州・魚部  
副理事長  
上野 由里代

今回、大会運営を任せられましたNPO法人北九州・魚部です。皆様にとって有意義な会にできるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて我々は今大会をきっかけに実現したいことがあります。1つ目は「紫川でタナゴが泳ぐ風景を取り戻したい」、2つ目は「県内で見られる自然や生き物に、今より良い状態で存続してほしい」。ただ現状、行政や多くの市民団体が「持続可能な開発目標（SDGs）」をテーマに掲げる中、持続不可能な開発や整備等が県内各地で行われているのも事実です。

「ふくおか水もり自慢！」には、この現状を打破する力があると思います！今回は約30もの自然に関わる団体が発表します。そして福岡県は「ワンヘルス～人と動物の健康と環境の健全性は一つ～」を推進し生物多様性の保全に関しての取り組みをはじめました。また会場の北九州市は日本で最初のSDGs未来都市です。本大会で行政・市民・専門家が平等に意見を出し合い、各々の立場から自然にフィードバックすることができれば、きっと福岡県の自然環境は良くなるはずです。

自然とヒトが共存していけるよう、皆様と考え、行動に移すきっかけとなる大会にしたいと思います。

# プログラム

09:00 ~ 10:00 受付

10:00 ~ 10:20 開会式

10:20 ~ 10:40 【報告】「紫川のタナゴは絶滅したのか？」  
青木新吾（NPO法人北九州・魚部）

10:40 ~ 12:00 【シンポジウム】

紫川で絶滅したタナゴ類と淡水二枚貝  
のことから考える、治水の未来について

コーディネーター

島谷幸宏 氏（熊本県立大学 特別教授）

パネリスト

中島 淳 氏（福岡県保健環境研究所 専門研究員）～中・上流域の魚類生態～

乾 隆帝 氏（福岡工業大学 教授）～河口域の魚類生態～

林 博徳 氏（九州大学 准教授）～河川工学～

福岡県 河川整備課 ～課長（予定）～

北九州 市水環境課 ～課長（予定）～

青木新吾 氏（市民）～NPO法人北九州・魚部 会員～

12:00 ~ 13:00 休憩

13:00 ~ 13:20 【河川絵画コンクール表彰式】

13:30 ~ 15:00 【活動報告セッション①②】

15:00 ~ 15:10 休憩

15:10 ~ 15:30 【こどもの部表彰式】

15:30 ~ 16:50 【活動報告セッション③④】

16:50 ~ 17:00 閉会式

18:00 ~ 20:00 交流会（開催予定）

## MEMO

過去10数年間で、紫川に生息していたタナゴ類5種のうち、4種と産卵母貝であるイシガイが絶滅しています。また、魚部ではカゼトゲタナゴ紫川個体群の域外保全に取り組んでいます。

タナゴと淡水二枚貝が絶滅した原因はなんだろうか？カゼトゲタナゴは域内保全に移行できるのか？このような悲劇を繰り返さないために必要なこととは？

有識者、行政、市民、水辺の生き物、それぞれが理想とする20年後の県内陸水環境について共通認識をもち、それらを現実にするための礎として本シンポジウムを開催します。

# 発表順

## セッション①

1	(公財)北九州動物公園協会 到津の森公園	大人の部	みてみて!里の生きもの館 ～到津の森公園の「守る」取り組み～	P5
2	マリンワールド海の中道	大人の部	水族館における域外保全	P6
3	龍王・山・里・川の会	大人の部	建花寺川 多自然川作りへの願い!!	P7
4	遠賀川流域生態系ネットワーク 形成推進協議会作業部会	大人の部	遠賀川流域生態系ネットワーク 連携・協働の取組について	P8
5	福岡県県土整備部 河川管理課・河川整備課	大人の部	河川にいる希少種、外来種について	P9
6	山田緑地管理事務所	大人の部	山田緑地の水生昆虫 ～調査・保全・啓発活動について～	P10
7	(一社)ふくおかFUN	大人の部	あしもとの海	P11
8	古賀市環境課	大人の部	環(わ)をつなぐ環境教育について	P12

## セッション②

9	久留米工業大学 学生団体 PICTURE	大人の部	筑後川の魚をテーマにした コンテンツ制作によるPBL教育の効果	P13
		学生の部	筑後川の生態への興味向上を目的とした 「くるめウス おさんぽAR」の開発、展示	P14
		学生の部	知育系お魚シューティングゲームの開発	P15
		学生の部	筑後川の生態への興味向上を目的としたプロジ ェクション作品「FishShadow」の開発、展示	P16
		学生の部	水害時の“備え”“避難”“復旧作業” を理解する防災ゲームの開発	P17
		学生の部	お魚に変身	P18
10	(NPO)北九州・魚部	子どもの部	ぎょぶたんぼはたのしいたんぼ!	P19
11	めだかの学校	子どもの部	遠賀川水辺館で楽しい活動をしているよ!!	P20
12	遠賀川生き物調査隊	子どもの部	アカハラを飼育したよ!!	p21
13	水と緑の楽校	子どもの部	僕が樋井川でつかまえた生き物をおしえてあげます	P22
14	(特非)アザメの会	子どもの部	アザメの瀬体験学習	P23

## ～休憩～

## セッション③

15	九州産業大学	学生の部	雨庭について	P24
16	九州大学大学院工学研究院 流域システム工学研究室	学生の部	環境学習について	P25
17	明治学園中学高等学校	学生の部	昆虫食は外来生物問題も解決する!?	P26
18	明治学園中学高等学校 自然科学部	学生の部	ジャンボタニシの液肥化	P27
19	遠賀川流域子ども水フォーラム	学生の部	ウチワゼニクサの駆除について	P28
20	古賀市ほたるの会	大人の部	古賀のほたる飛翔調査から	P29
21	豊の国海幸山幸ネット	大人の部	萩川生き物探検隊	P30

## セッション④

22	ASCJ (Aloha Style Clean Japan)	大人の部	糸島ビーチの海ゴミ事情	P31
23	(NPO)遠賀川流域住民の会	大人の部	遠賀川流域のごみ調査	P32
24	堀川再生の会・五平太	大人の部	子ども達に希望ある未来を	P33
25	はかたわん海援隊	学生の部	はかたわん海援隊	P34
26	ふくおかの川と水の会	大人の部	流域の風土資産マップづくり	P35
27	古賀河川図書館	大人の部	久留米大学御井図書館古賀邦雄河川文庫の活動	P36
28	笹尾川水辺の楽校運営協議会	大人の部	ナイトリバー実行委員会の活動内容について	P37
29	遠賀川親めだかの会	大人の部	わたくしたちは親めだか!!	P38

# みてみて！里の生きもの館 ～到津の森公園の「守る」取り組み～

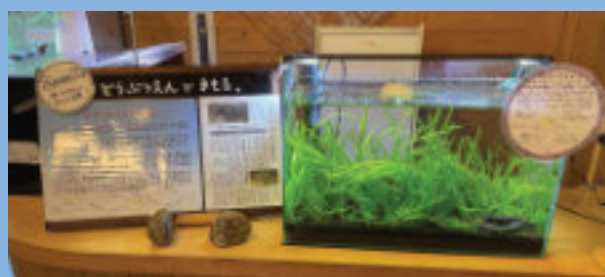
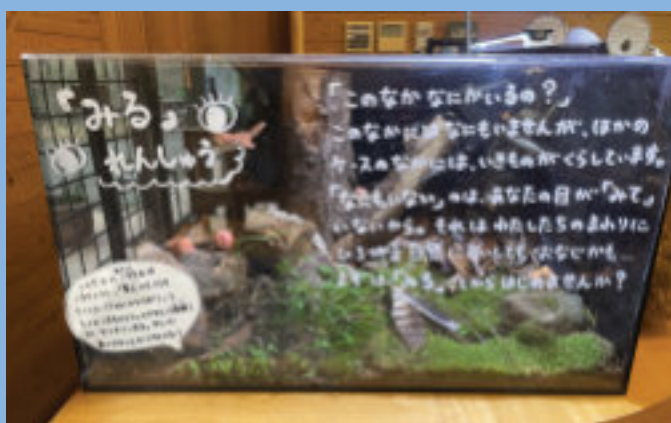
公益財団法人北九州市どうぶつ公園協会 到津の森公園  
工藤 桜子

「到津の森公園（いとうづのもりこうえん）」は九州の北部・福岡県北九州市小倉北区にある、動物のいる公園です。前身の「到津遊園」閉園から「到津の森公園」開園に繋がった経緯として、52団体、計26万人から存続の要望があるなど、市民活動が大きく影響した経緯があります。

基本理念は「市民と自然を結ぶ『窓口』となる公園をめざす」。展示動物の生息環境や、空間の棲み分けなどを自然に近い形に再現した中で動物を飼育することにより、自然環境のすばらしさや自然の多様性、動物と自然との関係が理解できる展示づくりを行っています。また、動物の飼育展示だけでなく、学習プログラムなど環境教育にも取り組んでいます。

里のいきもの館におけるカゼトゲタナゴとセボシタビラの系統保存と教育・啓発活動について発表します。

【アピールポイント】「動物園」といえばゾウやキリンなど海外の動物たちが注目されがちですが、今回注目してほしいは郷土の水辺や森林がまわりにひろがる里のいきもの館！わたしたちの身のまわりにも、世界に自慢できるいきものたちがたくさんいます。市民と地元の自然をもっとつなげられる存在になっていきたいです。



団体HP  
<https://www.itozu-zoo.jp/>

# 水族館における域外保全

マリンワールド海の中道  
鈴木 泰也

九州をテーマにした水族館。海産魚類、淡水魚、刺胞動物「クラゲ」の飼育展示、繁殖を行っています。業務は多岐に渡り、バックヤードツアーやショーの運営、潜水業務、淡水魚保全活動。

20年以上ヒナモロコの保全活動に取り組み、現在はセボシタビラ、ニッポンバラタナゴの累代繁殖、近年ではハカタスジシマドジョウの繁殖に取り組んでいます。

水族館における内水面の域外保全活動。日本動物園協会に加盟している園館の保全活動紹介。自然復帰の難しさなどを発表します。

【アピールポイント】開館以来30年にわたる保全活動継続。収益だけではない水族館の存在理解。



団体HP  
[marine-world.jp](http://marine-world.jp)

# 建花寺川多自然川づくりへの願い

龍王・山・里・川の会  
井手 克行

龍王会は里山保全と河川の水質浄化活動を通してユニバーサル社会の実現に寄与する為、毎年小学校・中学校で環境学習会や環境保全活動を通して次世代リーダーとなる子ども達の支援とグローバル社会を生きる為「SDGs17の目標」を学び夢と希望を持って未来に旅立つ環境作りを進めて他の団体とのネットワーク作りを進めている。

龍王会は設立以来、河川環境改善の為、河川清掃水質浄化活動を地域住民に呼びかけ水質浄化に努め、地元小学校、中学校の児童・生徒と水質調査、水生生物調査を続け、平成14年15年にナマズ、平成29年にはモクズガニも発見しました。建花寺川が多様な自然環境を有する豊かな川に戻つつあります。又サケの稚魚放流事業は地域住民にも河川への思いが高まっているところです。

しかし飯塚県土整備事務所の河川改修工事が初まり、治水のみで環境に配慮した多自然川作りになっておらず、色々な水生生物が死滅しました。河川整備計画における基本理念は「治水」「利水」「環境」のバランスをとることになっていると思います。今こそ多自然川づくりに注目してほしい。

【アピールポイント】河川整備を進めるにあたり、治水安全度の向上が前提であるが、市民協働による河川環境の保全と多くの人々が親しめる川づくりを両立する必要があると思います。



伊岐須小3年生86名 サケの稚魚放流

2022/06/09



伊岐須小4年生90名 水かんきょう教室

2022-06-09



# 遠賀川流域生態系ネットワーク 連携・協働の取組について

遠賀川流域生態系ネットワーク形成推進協議会作業部会  
宮原 彰

遠賀川流域の関係機関（国・福岡県・流域内市町村7市13町1村）からなる団体です。遠賀川流域の多様な生物の生息・生育環境を保全・再生していくため、共通の目標（明治期以前の環境）を掲げ、生態系ピラミッドの下位（水質、植物、魚類）から再生するボトムアップ形式、ポテンシャルの高い拠点（点）から始め、河川のような回廊（線）で結び、点から線、線から面へと生態系ネットワークの形成を推進しています。

遠賀川流域生態系ネットワークの概要、現在の取組状況などを発表します。

【アピールポイント】外来生物対策WG（外来生物の駆除等）、自然環境WG（河川・農地等環境の保全・再生等）、社会環境WG（生態系に関する連携・情報共有・発信等）3つのWGを立ち上げて活動しています。今後、外来生物駆除の検討、環境にやさしい農作物の生産やブランド化の支援の検討、など、多様な主体と連携・協働しながら取り組んでいきます。



団体HP  
<http://www.qsr.mlit.go.jp/onga/>

# 河川にいる希少種、外来種について

福岡県県土整備部河川管理課・河川整備課  
西田 悠人

福岡県内で河川事業、水防事業、ダム事業を実施しています。

【河川整備課】  
河川改修事業・河川整備基本方針・整備計画・流域治水に関すること

【河川管理課】  
水防・河川法等の許可・災害復旧事業・浸水想定区域図・ハザードマップに関する  
こと

今年の発表では福岡県の河川に生息している希少種、外来種の取り扱いについて分  
かりやすく説明します

【アピールポイント】河川にいる希少種、特定外来種について、取り扱いを誤ると  
法律や条例により罰せられることがあります。皆様に生物の取り扱いについて知っ  
ていただけると嬉しいです。



団体HP

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4800724/>

# 山田緑地の水生昆虫 ～調査・保全・啓発活動について～

山田緑地管理事務所  
上野 由里代

山田緑地は「指定管理者：九州造園・グリーンワーク共同事業体」が管理運営をしており、山田緑地管理事務所のスタッフもその事業体の一員です。

山田緑地は、およそ140ヘクタールの広域公園。第二次世界大戦から戦後にかけて日本軍やアメリカ軍により弾薬庫として使用され、約半世紀にわたって一般の人々の立ち入りが制限されたため、宅地開発などの開発行為の手が加わらず森の環境が保たれてきました。そのため多種多様な野生生物が生き残っており、私たちスタッフは日々、調査・保全活動、そして少しでも多くの方に身近な自然環境や生き物に興味関心を持っていただく機会になればと、環境教育の実施やイベントの企画運営等も行っています。また、山田緑地の森を守り・育て・学びながら、遠い未来の人々に自然保護の大切さを伝えていくために「30世紀の森づくり」を進めています。私たちはこの貴重な山田の森を守り、その自然の営みから多くのことを学んでいきたいと思い日々活動をしています。

山田緑地の貴重な自然のひとつ「湿地の生き物たち」長い間保たれてきた山田緑地の湿地には、希少な生き物も多数生息しています。その中で今回の発表のテーマとするのは『湿地の水生昆虫』です。私たちスタッフが日頃行う、水生昆虫の調査、保全活動、そして啓発活動などの取り組みをご紹介します。

【アピールポイント】山田緑地の豊かな自然を伝えたい。今後も山田の森の自然環境を守っていくために、どうすればいいか、アドバイスなどあれば教えてほしい。



団体HP

<https://yamada-park.jimdofree.com>

# あしもの海

一般社団法人ふくおかFUN  
池田 杏美

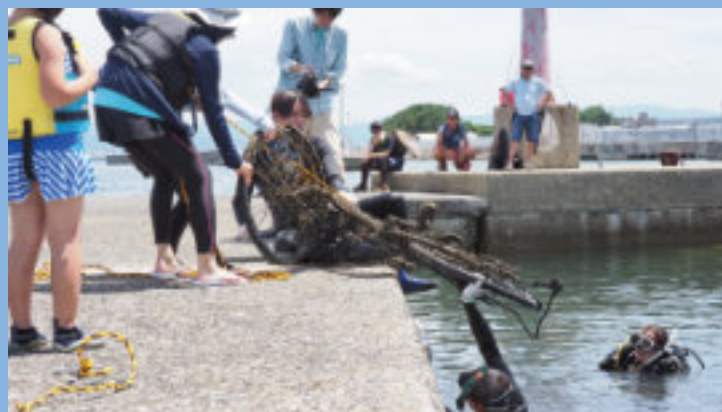
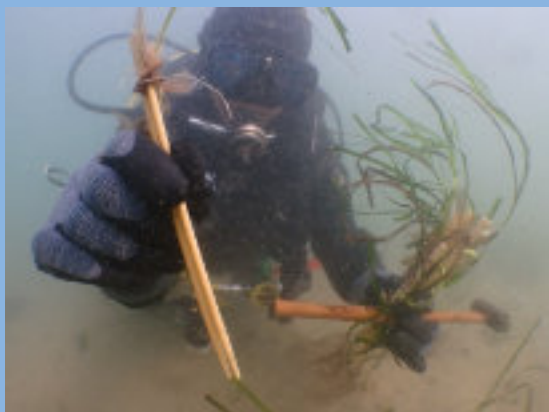
「自然伝承」を理念とし、豊かな自然を守り伝えていくため生物多様性の保全や気候変動対策に取り組む。

陸上からでは見ることでできない水中世界の魅力と課題を「ダイバーだからこそ」の視点から発信。

授業や講演・シュノーケリング体験・海洋ごみの回収・アマモ場の造成など、多様な主体と連携しながら公益性を伴った活動を行っている。

福岡の海の魅力と課題について発表する。

【アピールポイント】陸上からでは見ることでできない海のなかには、自然豊かな世界が広がっています。一方、海洋ごみ問題など、海は様々な問題を抱えていることも現状です。その問題に対して、ダイバーだからこそ見える魅力を共有し、「楽しみながら」取り組んでいけるようなキッカケづくりを行っています。



団体HP  
<https://fun-fukuoka.or.jp/>

# 環(わ)をつなぐ環境教育について

古賀市環境課  
安部 優美

古賀市は福岡市と北九州市の間に位置し、犬鳴山系・立花山系など緑豊かな山々からはじまり、白砂青松の美しい海岸線に注ぐ二級河川の大根川水系や、江戸時代の文献にも登場する千鳥ヶ池などの豊かな自然に恵まれたまちです。身近でありながら地球規模にも広がり、次世代にも関わる環境問題の持つ多面性を市民や事業者が学び、理解し、「自分事」として考えて、持続可能な社会の実現につながる具体的な行動を実践できるよう、さまざまな主体がつながりの「環(わ)」を拓き、あらゆる場面での体験活動などを通じ、世界にも目を向けた広がりのある環境教育を推進します。

生きものから受ける恵みに感謝し、その恵みを将来世代へ引き継ぐために策定した「生物多様性古賀戦略」でめざす、古賀の将来像を実現するため、私たちは次の4つのAction (アクション) を起こすこととしています。1. 生物多様性を知る、2. 生物多様性を守る、3. 生物多様性を活かす、4. 環(わ)を広げる。

まずは、古賀の生きものを見て、ふれて、知ることが重要と考え、市民との共働による「生きもの観察会」をはじめ、カスミサンショウウオやツクシオオガヤツリなど自然や生きものを守るための活動や、九州大学と連携した小学校向けの環境学習などを実施しています。

【アピールポイント】古賀市環境課単体で事業を実施するのではなく、「九州大学大学院流域システム工学研究室」や「古賀市環境市民会議（ぐりんぐりん古賀）」の皆さまとうまく連携しながら、自然や生きものとふれあう場の充実をはかっているところがアピールポイントです。運営側の私たちも毎回楽しみながら開催している様子も見ていただければと思います。



団体SNS  
@koga\_ecouma

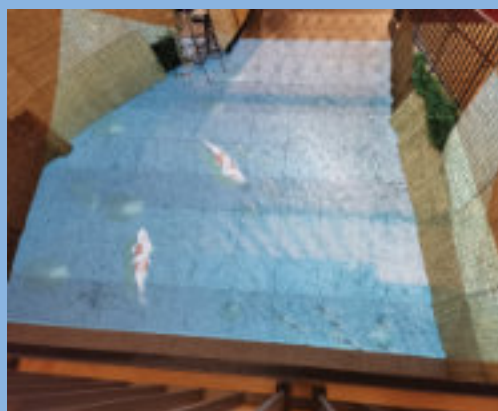
# 筑後川の魚をテーマにした コンテンツ制作によるPBL教育の効果

久留米工業大学 学生団体 PICTURE  
池田 雄一郎

久留米工業大学PICTUREはCGやプログラムを用いた、ゲーム・アプリ・映像を制作する学生団体です。日々色々なコンテンツ開発を行っております。

本発表では、久留米工業大学の学生団体PICTUREの学生がPBL授業の一環として行った、筑後川の魚をテーマにしたCGやプログラミングを活用した作品制作活動とその成果について発表します。また、制作活動によって得られた結果や知見をベースに今後どのような活動を考えているかなどについても発表します。

【アピールポイント】学生には他にはない自由な目線と行動力があり、明確な目的や課題がある場合、学生による独特な発想やアプローチによって解決を試みることができます。本発表ではそんな学生たちの筑後川をテーマにした制作活動を紹介いたします。本発表をきっかけに学生が社会に新しい提案を挙げつつ、かつ、学生にとってよい経験になるような機会が増えればと考えております。



団体HP  
<https://pictureanimationst9.wixsite.com/mysite>

# 筑後川の生態への興味向上を目的とした「くるめウス おさんぽAR」の開発、展示

久留米工業大学 学生団体 PICTURE  
近藤 竜世

久留米工業大学PICTUREはCGやプログラムを用いた、ゲーム・アプリ・映像を制作する学生団体です。日々色々なコンテンツ開発を行っております。

筑後川防災施設「くるめウス」と協力しながら開発した、筑後川の魚に興味を持ってもらうためのARアプリの開発及びアプリの紹介。(実演あり)

【アピールポイント】「くるめウス おさんぽAR」は筑後川の魚をテーマにしたARアプリになります。本アプリは専用のマーカーにタブレットや携帯端末をかざすと3Dで再現された筑後川の魚が浮かび上がるといったコンテンツとなります。どこでも場所問わず展示できるため、実際の魚の展示とは違い人にも魚にもストレスフリーです。

また、本発表は「筑後川防災施設くるめウスにて行った筑後川の魚をテーマにしたPBL教育」の過程にて開発されました。



団体HP

<https://pictureanimationst9.wixsite.com/mysite>

# 知育系お魚シューティングゲームの開発

久留米工業大学 学生団体 PICTURE  
西村 英晃

久留米工業大学PICTUREはCGやプログラムを用いた、ゲーム・アプリ・映像を制作する学生団体です。日々色々なコンテンツ開発を行っております。

地元の筑後川に生息する魚について、子供から大人まで深く知ってもらうために弾を避けながら敵を倒すゲームにしてみました。久留米市の防災施設くめウスや神埼市内のイベントでの展示を行い、たくさんの方々に遊んでいただけて好評でした。

【アピールポイント】大人も子供も楽しめるため、家族全員がこのゲームを通じて、筑後川の魚について深く楽しく知ることが出来ます。



団体HP

<https://pictureanimationst9.wixsite.com/mysite>



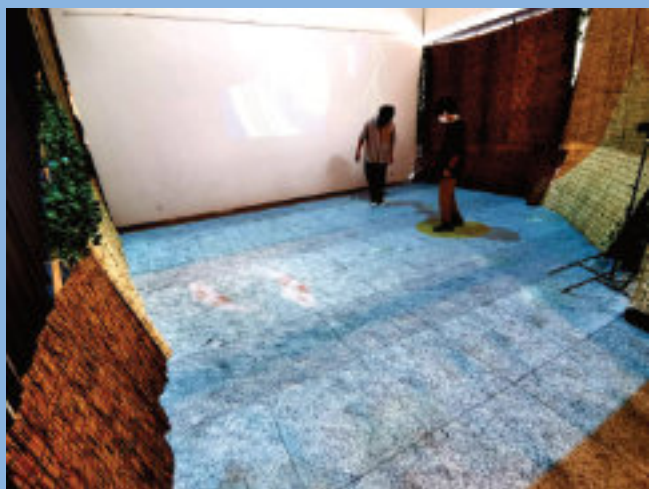
# 筑後川の生態への興味向上を目的とした プロジェクト作品「FishShadow」の開発、展示

久留米工業大学 学生団体 PICTURE  
宅万 輝

久留米工業大学PICTUREはCGやプログラムを用いた、ゲーム・アプリ・映像を制作する学生団体です。日々色々なコンテンツ開発を行っております。

私たちは久留米市にある防災施設くるめウス様の協力によって筑後川の魚をテーマにしたインタラクティブコンテンツ「FishShadow」を開発しました。FishShadowは魚が泳ぐ水面が床に投影されており、その水面の上に立った人を魚が避ける作品です。この作品を制作したきっかけは、展示を予定しているくるめウスを訪れるお客さんの多くが小さい子と保護者であり、お子さんが魚を追いかけて避ける様を楽しみつつ、保護者は魚と戯れる子供と涼しげな水面を見て癒されてほしいと思ったのがきっかけです。登場する魚は筑後川またはくるめウスに生息する魚となっており、少しでも筑後川の生態に興味を持ち、今まで以上に地域の方々と筑後川が繋がってほしいと考えているためです。

【アピールポイント】本作品は人と魚のバーチャル筑後川レクリエーション作品です。夏をコンセプトとし、優雅に泳ぐオイカワ、カワムツ、ニッポンバラタナゴ、ヒナモロコ、錦鯉などの魚たちや川のせせらぎ、他にも蓮の緑と小鳥たちのさえずりが空間に癒しを与えます。本作品の魚はすべて筑後川に生息しています。



団体HP

<https://pictureanimationst9.wixsite.com/mysite>

# 水害時の“備え”、“避難”、“復旧作業” を理解する防災ゲームの開発

久留米工業大学 学生団体 PICTURE  
草場 水積樹

久留米工業大学PICTUREはCGやプログラムを用いた、ゲーム・アプリ・映像を制作する学生団体です。日々色々なコンテンツ開発を行っております。

洪水や浸水といった水害から身を守るための知識と実際の被害の状況をゲームを通して知ってもらい、被災した際に役立てていただくことを目的にしたゲームを作成中です。筑後川防災施設くるめウス様との共同企画として、くるめウス様に講演をお願いし、実際におこった筑後川大水害、水路やマンホールといった近づくとも危ない場所、そして避難時の服装や道具などをご教授頂きました。それらを元に久留米市を舞台として、筑後川からあふれ出した水から避難所に向かって逃げる状況を想定したゲームを作る予定です。他にも事前の防災用品の準備をするステップを用意し、防災用品の有無によってゲームの進行が楽になるなど、現実でも防災用品などの事前準備の重要性も知ってもらえるようなゲームにする予定です。また、ゲームの持つエンターテインメント性や敷居の低さを活かし、ゲームを通して防災について知ってもらうことを目標としております。

【アピールポイント】ゲームの持つ「現実と違う点」は子供の教育に悪いとよく耳にすることが多いと思います。しかし、本ゲームではその現実と違う点が良い点です。現実では水害時の油断や知識不足によるミスは大きな怪我や命を落とすといった結果に陥りますが、ゲームでは何度ミスしても問題ありません。本ゲームが完成した際には何度か失敗してリトライしてもらい、いざというときに備えてもらえたらと思っております。



団体HP

<https://pictureanimationst9.wixsite.com/mysite>

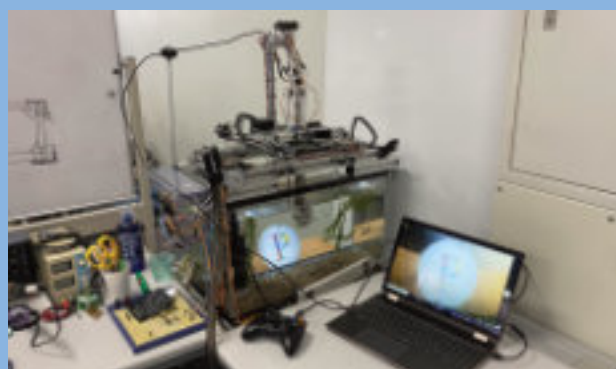
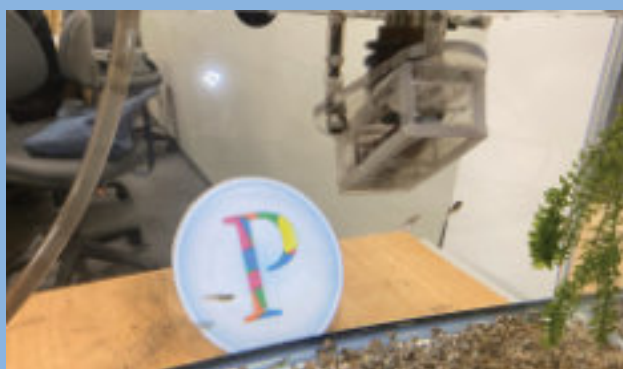
# お魚に変身

久留米工業大学 学生団体 PICTURE  
佐々木 健斗

久留米工業大学PICTUREはCGやプログラムを用いた、ゲーム・アプリ・映像を制作する学生団体です。日々色々なコンテンツ開発を行っております。

私は久留米市にある筑後川防災施設くるめウスにて筑後川にいる魚をみてその多様性に興味が出ました。そこで、多くの人にどんな魚が生息しているのか間近で見たい興味を持ってもらいたいと考えております。また、くるめウスの方と話した際に、水槽を叩いたりするなどの魚にストレスを与えるお子様などがあるとお聞きしました。そこで、水槽の外から魚を眺めるだけでなく、同じ水槽に入って魚と一緒に泳ぎながら魚を見る事ができたら楽しいのではと考え小さい魚でも目の前で見られるような体験ができる装置の作成を行いました。このデバイスを用いて魚を近くで見たい身近に感じてもらい、多くの人に魚を大切に扱ってほしいと考えております。

【アピールポイント】 普段観賞魚などは水槽の外から眺めることしかできませんが、このデバイスを通すことでお魚と一緒に泳いでいるような没入感のある視点で観賞を楽しめます。



団体HP  
<https://pictureanimationst9.wixsite.com/mysite>

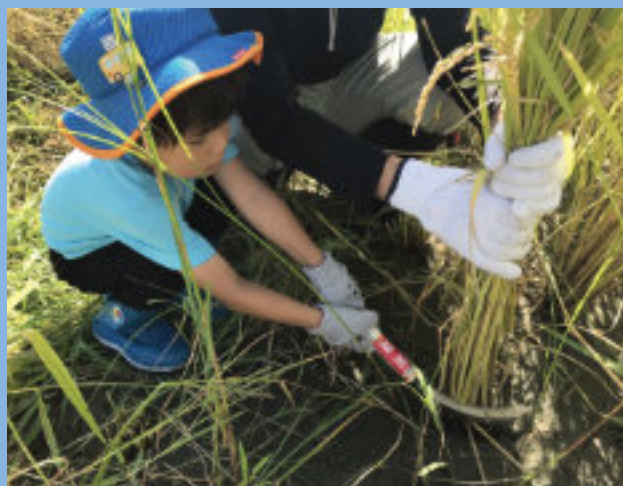
# ぎょぶたんぼはたのしいたんぼ！

NPO法人北九州・魚部  
武政 善葵・壮亮

北九州・魚部は海の近く小倉南区曾根新田にある休耕田をお借りして「ぎょぶたんぼ」と名づけ活動しています。

ここではお米をつくる田んぼだけでなく、子どもと気軽に自然観察ができる場所としての湿地も作りました。田植えや草抜き、稲刈りなどの作業を通して感じたこと、そこに棲む生きものについて発表します。

【アピールポイント】ぎょぶたんぼとその周辺の生きものについて知ってほしいです。



団体HP

<https://www.gyobu.or.jp/>

# 遠賀川水辺館で楽しい活動をしているよ！！

## めだかの学校

関岡 詩音、関岡 佳音、廣瀬 杏純、岡部 瑛樹、岡部 滉樹、小島 拓也、梅野 遥珈、梅野 壮真、百済 堅士郎

遠賀川水辺館「めだかの学校」で次のような活動をしてきている。

- ①遠賀川を描こう教室
- ②遠賀川生き物調査隊
- ③すずめ教室

その中で自分が一番楽しいと思っている活動について発表する。

- 河口（汽水域）の生き物調べ
- 春の小川（ビオトープ）の生き物について
- 絵を描こうの活動について

【アピールポイント】遠賀川水辺館が主催する色々な活動に参加した中で本人が楽しいと思うことに焦点をあてて発表する



団体メールアドレス  
mbk-bosai@basil.ocn.ne.jp

# アカハラを飼育したよ！！

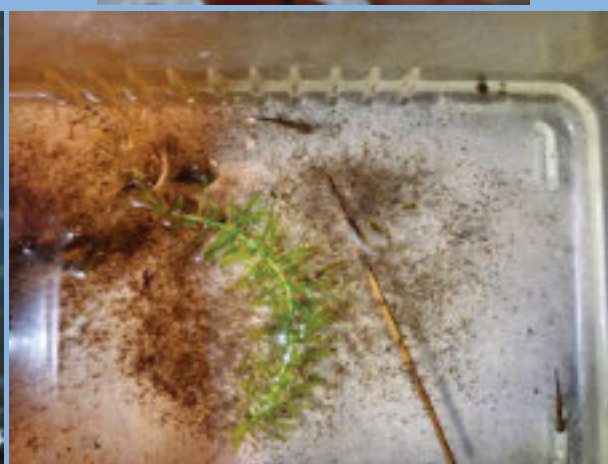
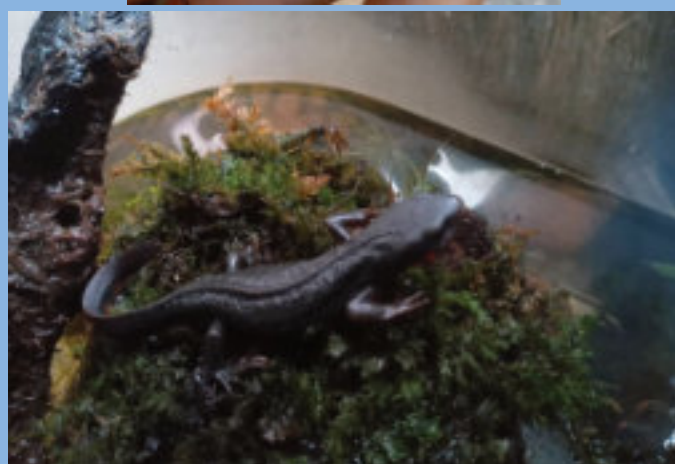
遠賀川生き物調査隊  
廣瀬 達真

毎月第3土曜日に次の活動を実施している

- ①遠賀川の水質調査（pH・COD）
- ②春の小川（ビオトープ）で生き物調べ

生き物調査隊で活動してきて本年度はアカハラに関心を持ち夏休みの自由課題として「アカハラ」を飼育している。そこでの色々な気付きや驚きなどを発表する。

【アピールポイント】アカハラは少なくなり、飼育にも配慮が必要である。  
今回はアカハラの赤ちゃんの観察も出来た。



団体メールアドレス  
mbk-bosai@basil.ocn.ne.jp

# 僕が樋井川でつかまえた生き物をおしえてあげます

水と緑の楽校  
伊豫岡 宏樹

保育園、小学校、公民館等を対象とした環境学習の実施や、毎月「樋井川さんぽ。」として気軽に川あそびなどと合わせてゴミ拾い等の環境美化につながる活動を継続しています。

「川遊びマニュアルin樋井川」などの資料等も作成し、学習会などに役立てています。

最近では、身近な環境に触れることのできる場づくりにも力を入れており、定期的な草刈りによって地域の人たちがいつでも利用できる環境を整えることで、日常的に環境に親しめる場のづくりを進めています。

水と緑の楽校では月に一度「樋井川さんぽ。」と称して樋井川に集まって、みんなであそんでいます。今日はみんなに僕の捕まえた生き物を紹介します。

【アピールポイント】定期的に子供たちと遊ぶ機会を作ることで、地域の大人が利用しやすいように水辺をメンテナンスしてくれています。この場所は地域の皆さんもそれぞれの使い方で日常的に利用しているようです。私たちが利用することで地域の魅力が高まり、地域の日常が豊かになる良い流れが生まれています。生物多様性にも良い影響があるかもしれません。



団体facebook

<https://www.facebook.com/mizutomidorinogakkou/>

# アザメの瀬体験学習

特定非営利活動法人アザメの会（唐津市立相知小学校5年）

山口 芳美

自然再生事業アザメの瀬において、相知小学校3・4・5年生とNPOアザメの会と一緒にアザメの瀬自然学習を行っています。特に、5年生は「米の一生」についてアザメの会の皆さんの指導を受け学習をしています。米の一生では5月の田植え前学習会、6月の田植え、10月の稲刈り、12月の収穫祭（もちつき）を行っています。そのほかに、3年生のアザメ体験や4年生のアザメで魚とり・堤返し、アザメの瀬夏休み環境教室等年間を通しておこなっています。

【アピールポイント】ふくおか水もり自慢に参加して11年目となります。マンネリ感もありますが、子供から元気をもらい頑張っています。



団体メールアドレス  
qqda5yd9@vc.people-i.ne.jp



# 雨庭について

九州産業大学  
大浦 雅人

福岡県糟屋郡新宮町の株式会社立花建設は、九州産業大学・山下研究室と5年にわたり「いえづくり・まちづくりの要素技術の開発」をすすめてきた建設会社です。主要テーマの一つである「防災とエコ」から花壇を雨庭にすることになりました。ただ、作るだけでなく、地域の皆さんの意見を伺って一緒に作る住民参加型とし、今回発表する雨庭は新宮町らしい雨庭を表現しています。九州産業大学4年生の大浦雅人は、タチケン雨庭の効果や性能を評価しています。

近年、「グリーンインフラ」が注目されており、その中のひとつに分散型水収支の観点から導入が進んでいる「雨庭」について発表します。今年度の調査としては、植栽の葉緑体の数と様々な影響因子による植栽へのストレス値を数値として見える化し、植栽の健全度を評価しています。今後は、地域の方と株分けのワークショップを考えています。

【アピールポイント】 この雨庭から、身近で起こる自然災害に向き合うきっかけとし地域の方と共に地域創生していきたいと考えています。また、雨水を貯留し浸透させる構造であるため、多少雨が降らない状況でも水やりは不要で、表面の砂利を厚くすることで雑草の侵入を抑制し手のかからない雨庭です。タチケンの雨庭から一人でも多くの方が防災やグリーンインフラに興味を持っていただけたら幸いです。



団体メールアドレス  
tachiken.tan@ab.auone-net.jp

# 環境学習について

九州大学大学院工学研究院流域システム工学研究室  
山崎 庸平

私たち九州大学流域システム工学研究室では、水を媒介とした自然と人の営みが融合したシステムについて研究，教育活動を展開し，水に関するさまざまな自然と社会の仕組みを整える手法・技術について，社会に働きかけることを目的として活動を行なっています。主な研究は、「多自然川づくりや自然再生事業の実践と評価」・「小水力発電の研究」・「水害研究」など幅広く取り組んでおり、普段の研究以外にも他分野の研究者との共同研究や，市民との交流を大切にしています。

私たちは、様々な地域で子どもたちに環境学習をおこなっています。子どもたちはたも網を身に付け、捕まえ方を教わりながら魚やエビ、昆虫などを捕まえます。見つけた生き物は1匹ずつその名前や特徴、レア度などを説明しています。

実際に川に入って生き物と触れ合うことで、自然の楽しさや大切さを子どもたちが学んでくることを願ってこのような活動を続けています。

【アピールポイント】私たちが普段おこなっている環境学習の楽しさが伝わるように発表します。特に子供たちだけでなく、講師側の私たちも楽しみながらやっている様子も見ていただければと思います。皆さんも環境学習を実際に受けているような感覚でお楽しみください。



団体メールアドレス  
matsumura.river@gmail.com

# 昆虫食は外来生物問題も解決する！？

明治学園中学高等学校  
定永 京悟、都留 凜太郎、福永 翼、寺岡 宜軌、内藤 圭祐

高校の課題研究の授業で、5年前から外来生物問題を解消するための研究をしています。今までの先輩たちは、モウソウチクの利用法の模索、ジャンボタニシの畜産飼料や肥料としての利用法の模索など、様々な研究を行ってきました。今年も、外来植物を食用コオロギの飼料として活用する研究を通して、厄介な外来植物を資源として活用する方法を模索しています。まだまだ研究の途中ですが、課題解決に向けて頑張っています。

外来植物を食用コオロギの飼料として活用する研究を行っている。現段階では、オオキンケイギク、クズ、モウソウチクを乾燥粉末化し、フタホシコオロギに与えることで飼料として利用できるかどうかを検討している。

【アピールポイント】高校の授業の中での活動であるため、1年ごとに研究テーマが変わっている状態ですが、その分、生徒たちは自分たちの設定した研究テーマに向き合い、主体的に研究に取り組んでいます。



団体HP

<https://meijigakuen.ed.jp/>

# ジャンボタニシの液肥化

明治学園中学高等学校 自然科学部  
鬼束 桂子、定野 華絵、ファウラー 姫瑠

明治学園中学高等学校自然科学部は、中学生・高校生合わせて約20名で活動しています。夜宮公園のカミサンショウウオの保護に関する研究や、外来植物「カミヤツデ」の分布に関する研究など、それぞれが興味を持ったことをテーマに選び、研究しています。私たちのチームはジャンボタニシを液肥として利用する方法を模索しています。研究を始めて半年程度ですが、実現に向けて日々頑張っています。

スクミリンゴガイ（通称：ジャンボタニシ）は生態系被害防止外来種にも指定されている厄介な外来種です。我々の先輩たちはジャンボタニシを乾燥粉末とし、肥料として利用する研究を行っていましたが、乾燥粉末化に大きな労力がかかることが課題でした。そこで我々はジャンボタニシを液肥化することで、肥料の作成効率を大幅に高めようと考えました。

【アピールポイント】ジャンボタニシについては、捕獲の研究は比較的多く存在しますが、捕獲後の利用についてはあまり研究されていません。我々は、捕獲後のジャンボタニシを肥料として活用する研究を行うことで、田畑の“厄介者”を、資源として活用する方法を模索しています。



団体HP

<https://meijigakuen.ed.jp/>

# ウチワゼニクサの駆除について

遠賀川流域子ども水フォーラム  
高山 陸、有田 真瞳、八代 風邪弥

直方高校自然科学部は、「やりたいことをとことんやる」をモットーに、部員各々が自然や科学に関することについて研究しています。今年度も河川の水生生物調査や天体観測会、野鳥保護活動などを行っています。また学校の近くにある遠賀川水辺館で、ボランティアや活動のお手伝いをしたり、フィールドをお借りして外来植物についての研究をしています。

私たちは、2019年度から外来植物ウチワゼニクサの駆除について研究を続けています。水辺の湿地と水中に生育するこの多年草は、遠賀川水辺館の人工河川「春の小川」で定着し、小学生の教育活動等に支障をきたしています。私たちは、ウチワゼニクサの性質について研究し、水域と陸域で違う駆除方法を提案実行し、効果を上げています。

【アピールポイント】4年間続けている研究をまとめます。陸域のウチワゼニクサに塊茎があること、その塊茎も発芽能力があることを確認しました。そのため、駆除が簡単ではないことが分かり、手軽にできて効果のある駆除方法として、遮光シートを用いた実験を検証しています。



団体メールアドレス  
mbk-bosai@basil.ocn.ne.jp

# 古賀のほたる飛翔調査から

古賀市ほたるの会  
山本 節子

古賀市ほたるの会は、平成7年に発足し27年目を迎え「ほたるを守ることを通して美しい自然環境を守り、それを次の世代へつないでいくこと」を目的に活動しています。主に蛍の飛翔調査・観察、蛍の幼虫の飼育指導(小学校)、ほたるの幼虫の放流、田んぼの生きもの調査、水辺の楽校(水生生物での水質検査)、カスミサンショウウオの調査、河川清掃等を行って古賀の自然環境保護のために活動しています。

古賀に生息する4種類のほたるの内「ゲンジボタル」を中心に平成7年前から現在、調査場所を6地点に決めて観察しています。毎年5月15日から6月5日まで6地点のほたる観察を行い、飛翔数が一番多いと思われる日にちを設定してデータを取っています。24年間の調査において古賀のほたるを通して、古賀の自然環境状況等が分かります

【アピールポイント】平成7年の発足前から飛翔調査を開始していましたが、平成10年から現在までの24年間の飛翔調査記録のデータを保存しています。「ほたるは自然環境のバロメーター」と言われていることから、古賀の自然環境の変化を見ることができます。



団体SNS

<https://www.facebook.com/kogahotarunokai>

# 秣川生き物探検隊

豊の国海幸山幸ネット  
西村 美津代、原賀 いずみ

豊の国海幸山幸ネットは、行橋市の沓尾海岸の保全と海岸清掃を毎月第二土曜日の早朝から実施している会です！「豊前海・里海・里川・里山学校」として、冬はクロツラヘラサギなどを観る野鳥観察会、夏は秣川生き物探検隊、豊前海キャンドルナイトなど、海・山・川に親しむ普及啓発活動を2008年から実施しています。今回パネラーの九州大学の島谷先生には2005年の行橋市の海岸保全からお世話になり、福岡県保健環境課、河川課OBの山本潔さん、福岡県保健環境研究所の中島先生や山田緑地の川原先生たちと一緒に、秣川の生物多様性と移り変わりを見つけてきました。

今年は、コロナ禍で2年間中止していた生き物探検隊を再開！！秣川の中流、上流、河口の3箇所をバスで巡り、親子で多様な川の生き物に出会うハードで楽しい活動がテレビ朝日の「朝デス！」の取材を受け、テレビやUチューブで発信することができました。今回、「川好き」という、みやこ町の内田町長も部分参加！福岡県の環境課、河川課、行橋市、みやこ町など行政も巻き込みながら実施することは、持続可能な京築地区の自然保護には不可欠であると信じて継続しています！

【アピールポイント】生き物の生物指標などもとりあげ、とても詳しくつくられた「朝デス！」の「川の生き物探検隊」をQRコードから、ぜひご覧ください！



団体紹介YouTube  
<https://onl.bz/ujQp4Gd>

# 糸島ビーチの海ゴミ事情

ASCJ (Aloha Style Clean Japan)

山本 潔

毎月最終日曜日の朝9時（夏場は7時）から糸島の海岸でゴミ拾いをしています。以前は数名でしたが、最近SNS等を通じて参加者が拡大し、このところ20名以上が集まるようになりました。

一年を通じて海ゴミ拾いをしていると、季節に応じて量や内容が変わることに気づきました。夏場はやりっぱなしの投棄ゴミ。冬場は高波による大型の漂着ゴミなど。ハングル語のペットボトル、やっかいな漁具ゴミなど種類も様々。ささやかな活動ですが、SNSで拡散することでより多くの方々に環境問題を考えるきっかけになればありがたいです。

【アピールポイント】老若男女、職業を問わず、見ず知らずの多くの方々が一同に会して、心を一つに「海ゴミを拾う」行動に汗を流す姿って不思議だけど何だか感動的です。SNSがコミュニケーションの手段となった世の中、こうしたボランティアの形もアリかなと思います。これからもゆる～くなが～く続けていきますよ。



団体Facebook

<https://ja-jp.facebook.com/AlohaStyleCleanJapan/>



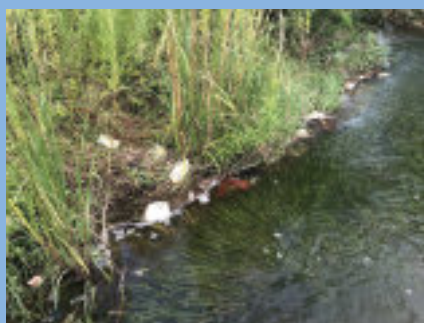
# 遠賀川流域のごみ調査

NPO法人遠賀川流域住民の会  
原口 公子

遠賀川の上流から下流までの27団体・個人により構成され、流域連携による”森一川一海”を通じた環境保全、人との交流を目指している。その一環として、上流では、水源の森保全のための竹林伐採・竹炭づくりとその活用を、下流では、遠賀川のごみが流出する芦屋・若松海岸においてクリーンキャンペーンを実施している。また、会員団体間の意見交換会や「遠賀川フェスタ」「遠賀川流域リーダーサミット」を開催している。

遠賀川流域の11か所で毎年2回、ごみの分別調査を行っている。本年で3年目となる。ごみの量、内容は調査日前の降雨等に影響を受けるものの、地域による特徴も見られる。農業地域が広がる上流・中流域では、黒マルチのビニール片や農薬や肥料用の大きなビニール袋が、また、堤防に車道が完備しているところでは、釣り人が放置したと思われる釣り糸、ウキ、釣り竿、たばこの吸い殻、弁当殻などが多いことが分かる。河川敷上に車道がある地点では、車から投棄されたと思われるレジ袋に包まれた弁当殻、ペットボトル等が多くみられた。マスクもほとんどの地点で捨てられている。

【アピールポイント】海洋プラスチックごみが海の生き物に深刻な影響を及ぼしており、そのごみの約80%は、川からの流入といわれている。川のごみを調査し、特にプラスチックゴミが非常に多いことを知ってもらい、その削減に取り組んでいきたい。



団体HP

<https://www.ongagawa.jp/>

# 子ども達に希望ある未来を

堀川再生の会・五平太  
中村 恭子

水の流れていない、膝上まであるヘドロの中からガスがぶくぶくと上がっている遠賀川は悲鳴を上げて泣いていました。「水が流れる川」に再生する事だけを願って毎週、20年間1000回以上堀川に通い、浄化活動に勤めています。

毎週：乳酸菌120リットル投入（折尾駅東口、水巻・河守神社の前の2箇所）、毎年：①乳酸菌団子作り&投入（小中高14校と約26万個投入済み）②身近な水環境の全国一斉水質、水生生物調査（小4年生と）③川の環境教室（講師は国交省）④堀川子ども魚釣り大会（乳酸菌投入7年後、BOD：8.0が1.2mgに。魚が千匹ほど戻って来た！）⑤堀川ツアー。⑥ナイトリバー&幸福の黄色いハンカチを堀川に掲揚。他。

＜過去の成果＞毎週浄化活動以外に、1) 蛍の人工飼育（中間市通谷電停付近、現在蛍の名所に）。2) 本2冊発行し2市1町の小・図書館に寄贈。3) 3年間の大学生とのシンポやワークショップも助けてくれた。4) 島谷先生の「弾丸ツアー」：韓国のチョンゲチョンや四万十川、対馬での勉強会は最高でした。5) 国交省のなつき所長さんに友達3人を静岡の源兵衛川、広島の太田川などを視察させて戴き、私たちを一層川好きに。6) 第1回アジア太平洋サミット（別府市に於）に日本代表で堀川歴史劇：一田久作伝「筑前ナッチョラン節」を2時間30分公演。特別、忘れ難いやりがいのある事業でした。「受賞歴」：9つ戴く、感謝。

＜今後の課題＞遠賀堀川は2ヶ所切断され、源流の無い雨水と家庭排水のみの川。昔の「宝川」に、もう戻すことは出来ないのでしょうか。

【アピールポイント】継続は力なり、水が綺麗になって魚が戻ってきた



# はかたわん海援隊

はかたわん海援隊  
田中 尚輝

私たちは、月に一度樋井川で河川清掃を行っており、樋井川にどのような種類のゴミがあり、どのくらいの量のゴミが落ちているのかをデータ化し、研究を行っています。また、小学生に向けた樋井川に関するクイズ大会や魚取りなどのボランティア活動を行っています。

樋井川での河川清掃、環境学習会を發表します。

【アピールポイント】はかたわん海援隊の主な活動として月に一回の河川清掃が挙げられます。ゴミの分布と河川の流れを分析することで、より適切に管理できる基盤をつくるため、日々研究しています。私たちの行っている活動の具体的な内容に注目して發表を聞いていただきたいです。



団体メールアドレス  
tanatana.naonao@icloud.com

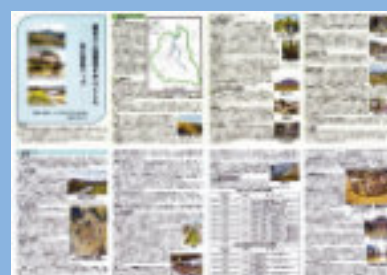
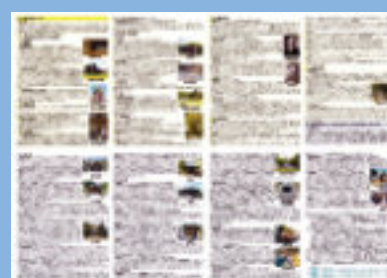
# 流域の風土資産マップづくり

ふくおかの川と水の会  
山本 潔

川に係わってきた国・県・市の職員OBや、川好きな一般県民、家庭の主婦などから構成される平成19年4月に結成された団体で、現在の会員数は136名。楽しみながら川を学び、川とふれあい、森を育てることが信条です。

これまで、川をうたった県内の小中学校の校歌探訪、そして流域の風土資産などの情報を一枚の地図で表現した風土資産マップの制作に取り組んできました。令和2年度に着手した遠賀川上流圏域マップの制作は、コロナ禍での行動制限のもとで予定より一年遅れたものの、今年3月に完成させることができました。制限の多い世の中ですが、参加団体同士で互いにエールを交わすなかで、自分たちを含めたみんなが少しでも元気になれば幸いです。

【アピールポイント】河川の流域で育まれた様々な歴史、文化や自然遺産である「風土資産」を一覧できるものとしてまとめたマップを作成しました。流域に住む人たちや子どもたちに知ってもらうことでふるさとや自然を愛する心と流域の連帯感を持つきっかけとなってほしいです。



団体HP

<https://sites.google.com/view/f-kawamizu/>

# 久留米大学御井図書館 古賀邦雄河川文庫の活動

古賀河川図書館  
古賀 邦雄

久留米大学御井図書館内に古賀邦雄河川文庫を開設し、水・河川・湖沼に関する書籍、約1万冊を閲覧・貸出を行っている。さらに、河川新刊書が発行された場合、そのつど、図書館に納入され、閲覧・貸出を行っている。

○河川書等の分類として、文学・詩歌・歴史・紀行・舟運・写真集・法律・経済・社会・農業水利・水害・治水・水資源開発(ダム建設)・環境・公害・上水道・下水道・生態学・児童書となっており、河川等を体系的に揃えている。

○今後は、河川書等の書籍の充実を図っていききたい。

【アピールポイント】日本一の河川図書館だ。（皆様、久留米大学御井図書館 古賀河川文庫へ是非来てください。）



団体（御井図書館）HP  
[https://twitter.com/kurume\\_u\\_miilib](https://twitter.com/kurume_u_miilib)

# ナイトリバー実行委員会の活動内容について

笹尾川水辺の楽校運営協議会  
館林 学

地域の子どもや住民の親水活動や環境学習の企画運営および活動拠点の整備  
ナイトリバーの実行委員会の企画、運営に関する苦労話および成果について

【アピールポイント】地域の多くの団体との「出会い」を大切にし、手づくりの牛乳パックキャンドルの提供を頂き、この作品を会場の河川敷に飾り付け、灯をともし、幻想的な夜景を楽しんでいただけると同時に、水辺の賑わいの創設を行う。企画・準備に当たって、若手実行員会特に女性パワーを発揮。



ナイトリバー2022  
in なかま川づきあい交流会

テーマ **出会い**

～人と人との出会いが、みんなの夢・希望・平和をつなぎます～

日時 2022年10月29日(土) 18:00～20:00  
※雨天時 11月5日(土)に延期

会場 笹尾川水辺の楽校(八幡西区橋北 芝谷橋下)

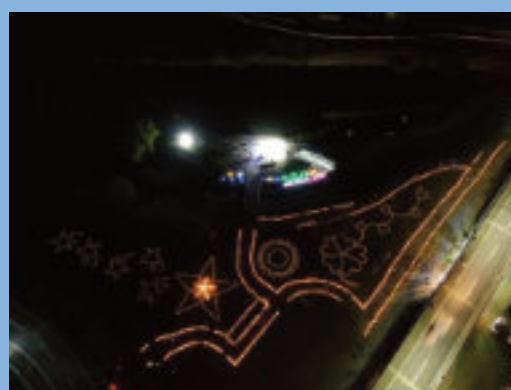
河口親水遊歩公園・遠賀町西川・遠賀橋川・遠賀川中島で同時開催

会場への中間・芝谷橋からの進入は禁止。  
裏面に会場への案内地図あり。

◎ 会場に来られる方はフェイスブック&インスタグラムに「サナイトリバー2022」を付けて投稿し、「出会い」の光を届けましょう！皆さんの投稿は下記QRコードから閲覧できます。

主催 なかま川づきあい交流会  
協賛 九州地方整備局遠賀川河川事務所  
協賛 遠賀川河川事務所

※本事業は、(一社)福岡九州河川利用協会の2022年度河川利用推進支援事業の支援を受けています。



団体HP/facebook

<http://mizubenorakukou.g2.xrea.com/>

<https://www.facebook.com/h1606sasaogawa>

# わたくしたちは親めだか！！

遠賀川親めだかの会  
飯野 芳徳、他7名

遠賀川水辺館が実施している「めだかの学校」に通う、育った子供の親たちが、水辺館の運営や河川環境学習について学ぶために、令和2年から活動を開始。現在、会員は14名で活動中

## ○水辺館水槽リニューアルプロジェクト（R2～）

- ・水辺館に設置してある古くなった水槽を、企画、デザイン、維持管理等も含めたリニューアル計画を実施中
- ・水槽に展示する魚を捕獲している。

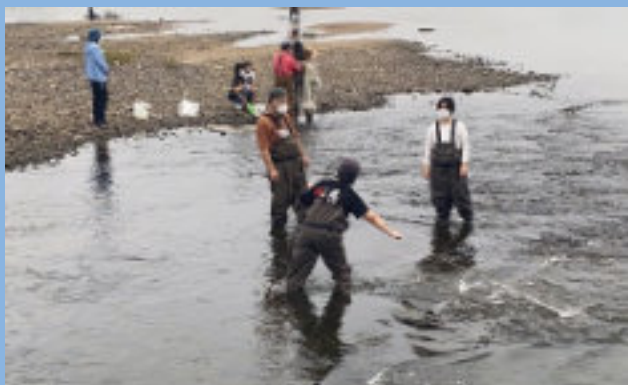
## ○親めだかファームの設置（R4～）

- ・水辺館の横のスペースで、プランターで植物を育てている。
- ・今年はトマトを育てている。

## ○その他

- ・先例地視察として、他の団体の活動や水槽リニューアルに関する施設の視察等を行っている。

【アピールポイント】自分たちで作りに上げる活動、制作の楽しさを伝える



団体メールアドレス  
mbk-bosai@basil.ocn.ne.jp

# 実行委員一覧

島谷 幸宏	熊本県立大学 特別教授
林 博徳	九州大学大学院 准教授
渡辺 亮一	福岡大学 教授
伊豫岡 宏樹	福岡大学 助教
浜田 晃規	福岡大学 助教
山下 三平	九州産業大学 教授
上野 由里代	(NPO) 北九州・魚部
工藤 雄太	(NPO) 北九州・魚部
大神 弘太郎	(一社)ふくおかFUN
大江 由美	(一社)ふくおかFUN
大神 健治	古賀ふるさと見分けの会 (一社) STANDARD KOGA
永野 克基	福岡市 河川計画課 計画係長
坂本 榮治	(NPO) 直方川づくりの会
松尾 一四	笹尾川水辺の楽校運営協議会
原口 公子	(NPO) 遠賀川流域住民の会
井手 克行	龍王・山・里・川の会
轟田 卓実	英彦山こてんぐ塾
金田 剛紀	遠賀川河川事務所
中村 恭子	堀川再生の会・五平太
原賀 いずみ	豊の国海幸山幸・北九州イターナティブ研究會
高田 泰行	北九州市 水環境課
穂積 千絵	福岡県北九州市整備事務所
梶原 誠也	福岡県北九州市整備事務所
駄田井 正	久留米大学名誉教授
古賀 邦雄	古賀河川図書館
川嶋 睦巳	筑後川流域連携倶楽部
吉田 貴衣	筑後川流域連携倶楽部
望月 文	(一社) Camp
松延 均	立花会りっぱなかい
松富士 将和	矢部川をつなぐ会
土居 元	土居自然学校

小倉 一人	筑後川河川事務所 占用調整課
北野 靖	福岡県河川整備課
山下 晋一郎	福岡県河川整備課
塩山 茂孝	福岡県河川整備課
中嶋 建太	福岡県河川整備課
眞砂 祐貴	福岡県河川整備課
西田 悠人	福岡県河川整備課
外山 英志郎	九州大学/川づくりネット福岡
東 卓司	九州大学/川づくりネット福岡
平岡 和真	九州大学/川づくりネット福岡
Inggrid Marcellina	九州大学/川づくりネット福岡
松村 一	九州大学/川づくりネット福岡
Raisa Gautama	九州大学/川づくりネット福岡
徳永 茉咲	九州大学/川づくりネット福岡
山崎 庸平	九州大学/川づくりネット福岡
藤井 友来	福岡大学/川づくりネット福岡
田中 尚輝	福岡大学/川づくりネット福岡
加藤 祐樹	福岡大学/川づくりネット福岡
田上 稜	福岡大学/川づくりネット福岡
大橋 徹也	福岡大学/川づくりネット福岡
鶴丸 知史	福岡大学/川づくりネット福岡
中島 大雅	福岡大学/川づくりネット福岡
永芳 優介	福岡大学/川づくりネット福岡
太田 千春	福岡大学/川づくりネット福岡
小下 雄大	福岡大学/川づくりネット福岡
宮崎 真里亜	福岡大学/川づくりネット福岡
福山 愛美香	福岡大学/川づくりネット福岡
萩尾 昂也	福岡大学/川づくりネット福岡
篠原 徹平	福岡大学/川づくりネット福岡
倉光 重理	福岡大学/川づくりネット福岡
大浦 雅人	九州産業大学/川づくりネット福岡
柏木 晃明	九州産業大学/川づくりネット福岡

## NPO法人北九州・魚部 運営スタッフ

工藤 雄太	武政 善葵	飯島 卓也
上野 由里代	武政 壮亮	朴 珠利
巽 靖昭	武政 彰	渡部 色
原 雅子	武政 厚代	二宮 裕美子
原 如海	内田 貴子	青木 新吾
毛利 智美	川原 二郎	小畑 華奈江
吉崎 雄一	安永 初音	小畑 美亜
内田 初弘	峰浦 記久子	小畑 徹誠
深川 勝久	金澤 遼	嶋田 良二



## ご感想を聞かせてください

---

会場でアンケートをお配りしています。第20回を今回より良いイベントとするために、ご記入のほどよろしくお願いいたします。また、インターネットからもご回答いただけます。

後日、本日の模様をYouTubeにアップロードいたします。詳細は準備ができ次第、水もり自慢！2022のホームページでお知らせいたします。（「水もり2022」で検索！）



アンケート



ホームページ

## 第19回ふくおか水もり自慢! In 北九州

「市民の声から始まる自然再生」パンフレット

---

2022年12月4日発行

発行：第19回ふくおか水もり自慢！in北九州 実行委員会

編集：NPO法人北九州・魚部

連絡先：福岡県北九州市小倉北区大手町2-1 2-2F

☎ 093-287-0517

✉ mizumori2022@gmail.com

印刷：株式会社プリントパック

---

※本書の一部あるいは全部を無断で複写・複製することは、法律で認められた場合を除き、禁止されています。

第19回 ふくおか  
水もり自慢 in 北九州



【主催】

第19回ふくおか水もり自慢！in 北九州 実行委員会

【後援】

西日本新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社  
国土交通省九州地方整備局  
(筑後川河川事務所、遠賀川河川事務所、山国川河川事務所)  
九州大学、福岡大学、九州産業大学  
福岡県教育委員会、北九州市教育委員会  
福岡市、北九州市、福岡県河川整備課

【協力】

福岡県河川協会

**PR TIMES**